

ウラ試験で抗 B が認められなかった O 型の 1 例

◎渡辺 祐希¹⁾、猪口 明実¹⁾、勝間田 綾香¹⁾、海野 夏美¹⁾、持田 結稀¹⁾、杉山 春香¹⁾、白須 智奈美¹⁾
学校法人順天堂 順天堂大学医学部附属静岡病院¹⁾

【はじめに】

ABO 血液型検査においてオモテ・ウラ不一致を認める原因として亜型や血液疾患による抗原減弱、異型造血幹細胞移植後などが考えられる。今回我々は基礎疾患がなく亜型も否定された 1 例を経験したので報告する。

【症例】

60 歳代男性、輸血歴・既往歴なし。急性腹症のため当院に紹介され救急外来を受診。肝腫瘍が疑われ精査目的のため入院となり、血液型検査が実施された。

【輸血検査】

オモテ検査で抗 A (0) 抗 B (0) 抗 D (4+) Rh - hr コントロール (0) ウラ検査で A 1 血球 (3+) B 血球 (0) とオモテ・ウラ不一致を認めたため判定保留とした。ウラ検査を血漿増量して再検査したが B 血球との反応は陰性であった。不規則抗体スクリーニングは陰性。

【患者情報】

患者情報を問い合わせたところ、過去にも血液型が判定されていなかった事が判明した。また、IgM も

126mg/dl と正常であったことから B の亜型が疑われた。

【追加検査】

抗 B による吸着解離試験を実施したところ B 抗原は認められず、血漿中の B 型物質も認められなかった。その為、東海北陸ブロック血液センターに亜型の精査を依頼したところ、B 型転移酵素も認められず O 型と判定された。

【結果・考察】

当初、亜型を疑っていたが精査の結果 O 型であると判定された。血液疾患や年齢が原因でウラ検査が減弱するという報告はあるが、今回のように主な原因がなく抗 B の減弱が認められる症例は調べた限りでは見つからず、興味深い症例と思われた。

【謝辞】

ご指導頂きました当院血液内科先任准教授岩尾憲明先生
深謝いたします。

連絡先 055-948-3111 (内線 7726)